

◆ ユネスコ事務局長イリーナ・ボコバさん来日 ◆

世界遺産登録は保護管理の長い闘いの第一歩



本年2月に来日したブルガリアのイリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長が東京で行われた講演会で、ユネスコの現状、展望について語り、来年夏に登録の可否が決まる鎌倉についても言及しました。平泉の世界遺産認定書授与式と世界遺産条約採択40周年記念開幕式に出席するための来日です。講演発言要旨をお伝えします。

◆ 世界遺産条約40周年

今年採択40周年の世界遺産条約を支えるのは、普遍的な価値を認識し遺産を人類共通の公益として保護していくという理念です。今日まで153か国以上の936か所の文化遺産および自然遺産が、ユネスコの世界遺産として登録されています。記念事業の締めくくりとして京都で11月にセレモニーが開かれます。保護の実践例の紹介、地元住民を動員する力などについて話し合う良い機会になると思います。

◆ 絆の再生

平泉を含めて紛争や災害後にいかに遺産を守るかということに尽力しています。平泉を訪れたとき、文化遺産がいかに癒しの力になるかということを知り、感銘を受けました。文化遺産には分断されてしまった人々の絆を再生する力があります。人間の尊厳や復興のための力の源泉でもあります。多くの人が尊厳の源としての遺産に依存しています。これこそわれわれが考える文化の重要な構成要素であることを示しています。

◆ 文化と開発

社会の中にある文化の側面に敏感でない開発政策が、人々の心に訴えることはありません。尊厳やより良き将来に対しての憧れは、それぞれの社会の文化という脈絡の中で表現されます。こうした文化の側面にアクセスすることなく、また全員の参画がなければ、開発の本当の意味でのビジョンは持続可能な形で担保されません。物質的な開発の側面と文化的側面の分断は、持続可能な開発にとって障害に他なりません。

◆ 世界遺産登録

世界各地に登録に値する遺跡はたくさんあります。その国の人材・能力はどうであるか、登録文書をきちんと作成・提出できるのか、保存管理計画が作れるのか、その計画を実行できるのかが登録には問われます。本当に大変なのは、その遺跡の保護・保全です。登録は単にスタートであり、その後に素晴らしい冒険の旅があります。この意味では1000件に近付いている世界遺産のリストの制限は、必要ないのではないのでしょうか。

◆ 自然災害の脅威から守る

日本からは富士山と鎌倉が推薦されました。鎌倉はHome of the Samuraiです。世界遺産登録は住民の誇りです。また世界遺産条約への信頼性を保っていくためには、クライテリア（評価基準）のスタンダードを高く保っていくことと、人的資源に欠ける国々を支援することが必要でリストの地域的な均衡を図っていきたいと思います。また気候変動、洪水、地震、干ばつなど新たな脅威の中で、世界遺産を守らなくてはなりません。

鎌倉まつり恒例

寺社特別拝観めぐり

今年も鎌倉まつりのパレード参加とともに、推進協議会広報部会長の内海恒雄さんの案内により、鎌倉の世界遺産候補地をめぐる寺社特別拝観めぐりを開催しました。寺社本来の在り方に配慮した拝観の心得を守り、より望ましい特別拝観を実施して、毎年好評です。今回の日程は次のとおり。特別拝観は太字で示しています。

4月9日 寿福寺 仏殿の釈迦三尊像等
浄光明寺 阿弥陀三尊像、覺賢和尚の墓等

4月10日 建長寺 仏殿・法堂・方丈等、
山門の釈迦如来・羅漢像、回春院の文殊菩薩・仏覺禪師像、禪居院の聖観音・大鑑禪師像等

4月11日 高德院 大仏・観月堂、庭園
大仏切通・北条氏常盤亭跡（雨天中止）

4月12日 覺園寺 愛染堂の愛染明王像、
薬師堂の薬師三尊像、地蔵堂の黒地蔵像等、
千鉢地蔵堂の千鉢地蔵像 **永福寺跡** 瑞泉寺仏殿の釈迦如来・千手観音像等、どこも（苦）地蔵、庭園

4月13日 極楽寺本
堂の不動明王・文殊菩薩像、転法輪殿の釈迦如来・十大弟子像等、**西方寺跡**の石塔群、上杉憲方墓



建長寺境内